

鶴子銀山(19) 鶴子に向かった吉田松陰

嘉永4(1851)年12月14日、脱藩した一人の長州藩士が東北へ向かいました。名を吉田大次郎といい、後に松陰と名乗ります。彼は24日、水戸で肥後出身の宮部鼎蔵と落ち合い、会津で逗留した後、翌年2月6日、豪雪の会津・越後の峠を越え、津川から新発田を経て、10日に新潟に着きました。

当初は蝦夷地を目指していましたが、船便がないことから、14日「転じて佐渡に航す」ことになり、出雲崎に向かいました。ここ

では、時化続きのため10日以上も船待ちを余儀なくされましたが、27日朝佐渡へ向かい、未の刻(午後2時)過ぎに小木に到着しました。このようにして松陰が佐渡に来たのは、幕臣から紹介された佐渡奉行所広間役の蔵田茂樹に面会するためだったといわれています。

茂樹は、若い頃、京に上って和歌を学び、天保年間(1830〜44)金銀上納のため江戸に滞在中、国学や和歌の大家と交じり、研鑽に励んだ人物です。

29日、茂樹を訪ねた松陰は、佐渡奉行所の機構や金銀山の話などを聞き取ります。また、茂樹の二男松原小藤太が、鶴子銀山屏風沢にある弥十郎間歩の番所役であることから、そこを見学することになりました。

翌晦日、「寒風栗烈、時々雪を飛ばす」中、小藤太が先導し、松陰・鼎蔵は、南沢の上流の大沢から弥十郎間歩へと向かいました。

産業観光部世界遺産推進課

☎ 63-5136

トキ野生復帰にむけて (159)



『トキとの共生座談会』の開催希望集落を募集します

1月1日現在、野生下のトキは、287羽が市内で確認されており、市内全域で行動しています。

多くの方々からトキの飛来を歓迎していただいている一方で、トキの行動範囲、観察する際の注意点などの疑問や不安、また、自己所有地への侵入、トキの観察のために農道の中央に駐車し、通行に支障をきたしているなどの不満もあると思います。

つきましては、地域や個人が抱える問題などについて、関係機関の職員が座談会を希望される地域にお伺いし、解決の糸口となるような意見交換などを実施しますので、お申し込みください。

開催期間	3月1日から3月30日まで(開催期間内において集落が希望する日に開催します。) ※お申し込み日時などは、ご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
開催時間	1時間から2時間程度
内容	①トキの飼育繁殖について ②野生トキの近況について ③意見交換
申込方法	2月28日(水)までに集落名、代表者名、希望する日時、希望する会場をご連絡ください。 ※お近くの公民館・集落センターなど、集落代表者が予約や会場使用料の支払いが可能な会場でお申し込みください。

お問い合わせ・お申し込み

産業観光部農業政策課 トキ保護係(トキふれあい施設内) ☎ 24-6550